

TPP-ase 活性は無髓線維では Schwann 細胞の原形質膜にもつともよく認められ、軸索の axolemma, 小胞にも認められた。有髓線維では Schwann 細胞の基底膜および神經髓に面する両側の原形質膜に認められ、この態度は Ranvier node でも同様であった。また Schwann 細胞の micropinocytosis vesicle でも活性が認められた。

ACHE 活性は無髓線維では軸索と Schwann 細胞の中間間隙に認められ、有髓線維では Ranvier node の axolemma および唇状皺壁で著明に出現した。

37. シナプス含粒小胞に対する $KMnO_4$ 固定の検討

京都府立医科大学第 1 解剖
越智 淳三

Richardson (1966), Hökfelt (1967), Ochi et al. (1968) らは 3% $KMnO_4$ (pH 7.3) 固定において交感神經系内の含粒小胞が高頻度に出現することが指摘されたが、その固定の機構は明らかにされていない。演者は、これを解明するために、交感神經支配の確実なウサギの虹彩散大筋に分布する終末または前終末について、固定液の pH を広範囲に変化させ、また包埋後の切片を種々後処置することによって、含粒小胞がどのように変化するかを観察し、小胞内の顆粒の高い電子密度が何に由来するかを検討し、これらの結果に基づいて $KMnO_4$ 固定につき若干の考察を加える。

38. ラッテにおける再生副腎の組織化学

千葉大学医学部泌尿器科
百瀬 剛一・片山 喬・○中田 瑛浩・
吉田 豊彦

Wistar 純系幼若雌ラッテに対し、(1) 1% 食塩水経口投与、(2) 1% 食塩水経口投与、片側腎摘出、(3) 1% 食塩水経口投与、両側副腎 enucleation、(4) 1% 食塩水経口投与、片側腎摘出、両側副腎 enucleation を行ない、4 群にわけ、それぞれの副腎、腎、その他の臓器の組織学的ならびに組織化学的検索を行なった。とくに副腎については 3 β hydroxysteroid dehydrogenase, glucose-6-phosphate dehydrogenase, secondary alcohol dehydrogenase 活性につき検討を加えた。なお(4)群で発症した高血圧と副腎の組織化学的所見の関係についても検討を行つたので報告する。

39. 委縮副腎の回復過程における胸線 histone の効果

東京医科大学第 2 解剖
新井 正治・○鈴木 卓朗・野首 和人

Corticosteroid による委縮副腎の回復過程に胸線 histone を連続投与して、その回復促進効果を副腎の重量と組織所見を指標として観察した。

Wistar 系成熟 rat 雌雄計 80 匹に Dexamethasone 0.2 mg/kg を 1 週間皮下注射したのち、これを 4 群に分ち、各群にその後ひきつづき 1 週間つぎの処置を施した。すなわち、第 1 群は無処置、第 2 群は胸線 histone 1 mg/kg を、第 3 群には Protamine 1 mg/kg を、第 4 群には、ひきつづき Dexamethasone の同量を、それぞれ皮下注射によつて連続投与した。

結果は、histone を注射した第 2 群の副腎重量が第 1 群および第 3 群より有意差をもつて大きく、かつその皮質細胞索は第 1・3 群に比して乱れが少なく、alkaline phosphatase の活性は全群中でもつとも正常に近い分布を示した。